

編 集 後 記

暑い夏、次々と日本列島に接近する台風、そして一気に秋が深まった感じがする。日本らしい「四季」が何か変化している感覚を持つのは私だけであろうか。

「生涯教育講座」では通常総説的な論文が多いと思うが、今回は少し趣きが違う。統合失調症については堀口氏の豊富な臨床経験から、「患者の生活課題に適合した」地域、社会の「社会療法」の必要性を述べられている。また奥田氏は患者満足度の評価を統計を駆使して分析している。患者の評価の視点が外来と入院では違う事、さらに「外来待ち時間」の絶対的な数値よりそのプロセスが重要で、医療提供者の「他者（患者）指向性」が大切と述べている。日常の対応に苦慮しているすべての医療機関の参考となる。

「臨床・研究」は島根県の医療機関が高度医療に積極的に取り組んでいるだけでなく、予防、福祉の分野でも先進的な活動を行っている事を示す論文が掲載されている。三井氏は「生体腎移植ドナーの腹腔鏡下腎採取術」が安全で低侵襲な手技として確立している現状を報告している。木佐氏は民間病院での画期的な「小児リハ部門」の新設と診療実績、さらに継続する上での経営的な困難さを述べ、行政にサポートを求めている。岩成氏は島根県での先進的な「細胞診・HPV 検査併用子宮頸癌検診」の成果により広汎子宮全摘が激減した事を報告した。「有効性が疑問視されている検診」がある中で、明確なエビデンスを示したことは特筆される。

また舟塚氏、中村氏の症例報告も貴重である。日常の診療の中で診断、治療が困難な症例があり、その可能性を常に考えて診療にあたる「感性」と「謙虚さ」を学びたい。

(K.N)

島根医学編集委員

葛尾信弘， 貴谷 光， 秦 公平， 児玉和夫， 森本紀彦，
浅野博雄， 沖田旺治， 齊藤洋司， 佐藤比登美， 井川幹夫，
中山健吾， 徳島 武

島 根 医 学

平成25年9月30日発行

発行者	島 根 県 医 師 会
編 集	松江市東奥谷町 編集者 葛尾信弘
発行所	松江市学園南2丁目3番11号 有限会社 松陽印刷所